

# 立命館大学の目録を取り巻く状況

立命館大学図書館  
図書館サービス課  
木下 祐子

2006.9.27

# アウトソーシングを利用した 目録作成



立命館大学衣笠キャンパス（京都）



立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県）



衣笠図書館



立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）

# 立命館大学の目録冊数

年間受入冊数

経常約6万5千冊

近年（臨時図書含む）総数約8万冊

## 全学受入冊数の推移

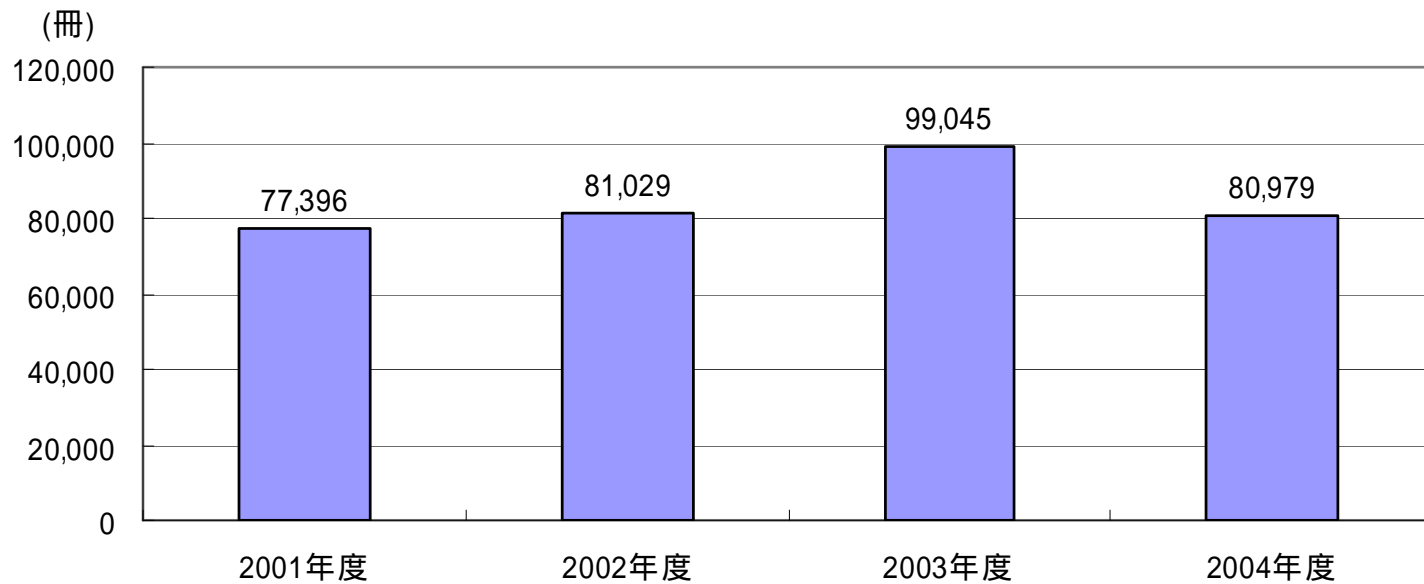


図1.3.1-1 学園受入冊数の推移(APU含む)

# 目録作成体制

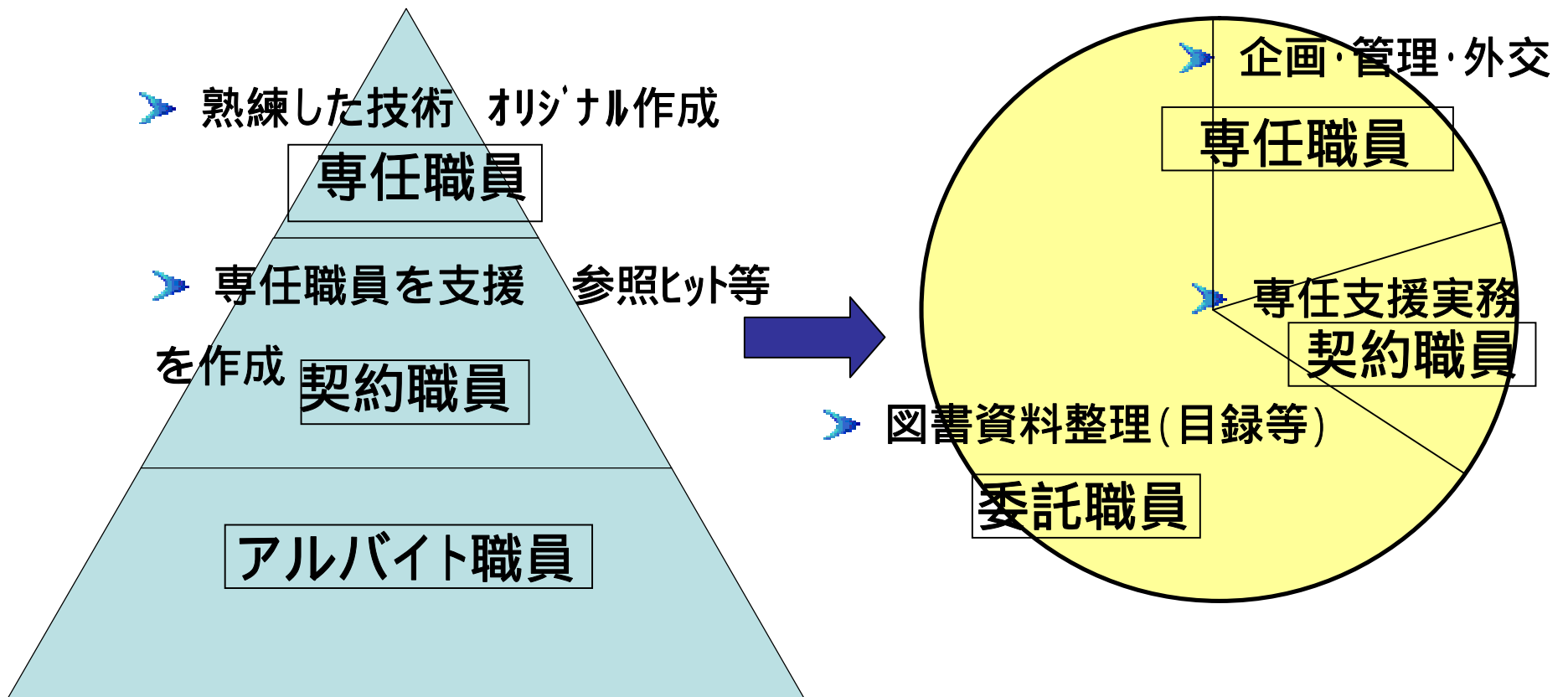
- 1 . 1999年度より全面アウトソーシング体制
- 2 . 一拠点(衣笠図書館)集中方式  
2大学3キャンパス(2006.9～4キャンパス)
- 3 . 目録作成従事者 約11人～13人
- 4 . 企業におけるバックアップ体制(東京)
- 5 . ローカル書誌メンテナンス要員の確保  
(内数1名 2005.4～)

-システムの变遷と遡及事業の結果-

# 「アウトソーシング」活用理由

1. 大学における職員総定員数論  
私立大学の課題・新設学部・学科
2. 専任職員の役割      基幹職員(総合職)  
企画政策・配転
3. 安定した整理体制の確保  
期間・品質・サービス

# アウトソーシングのイメージ図 (役割の分担)



# アウトソーシング業務 (目録品質と関連して)

1. 業者の選択基準  
価格でなく品質      委託費(増加)
2. 単価契約でなく包括契約
3. 大学管理下における委託化  
責任の分担

# アウトソーシング業務 (実施にあたって)

1. 立ち上げ期の共同作業(全件点検)
2. 月例会議の遂行(統計等)
3. マニュアル・仕様の確認
4. 委託会社の運用支援 (図書館内で)



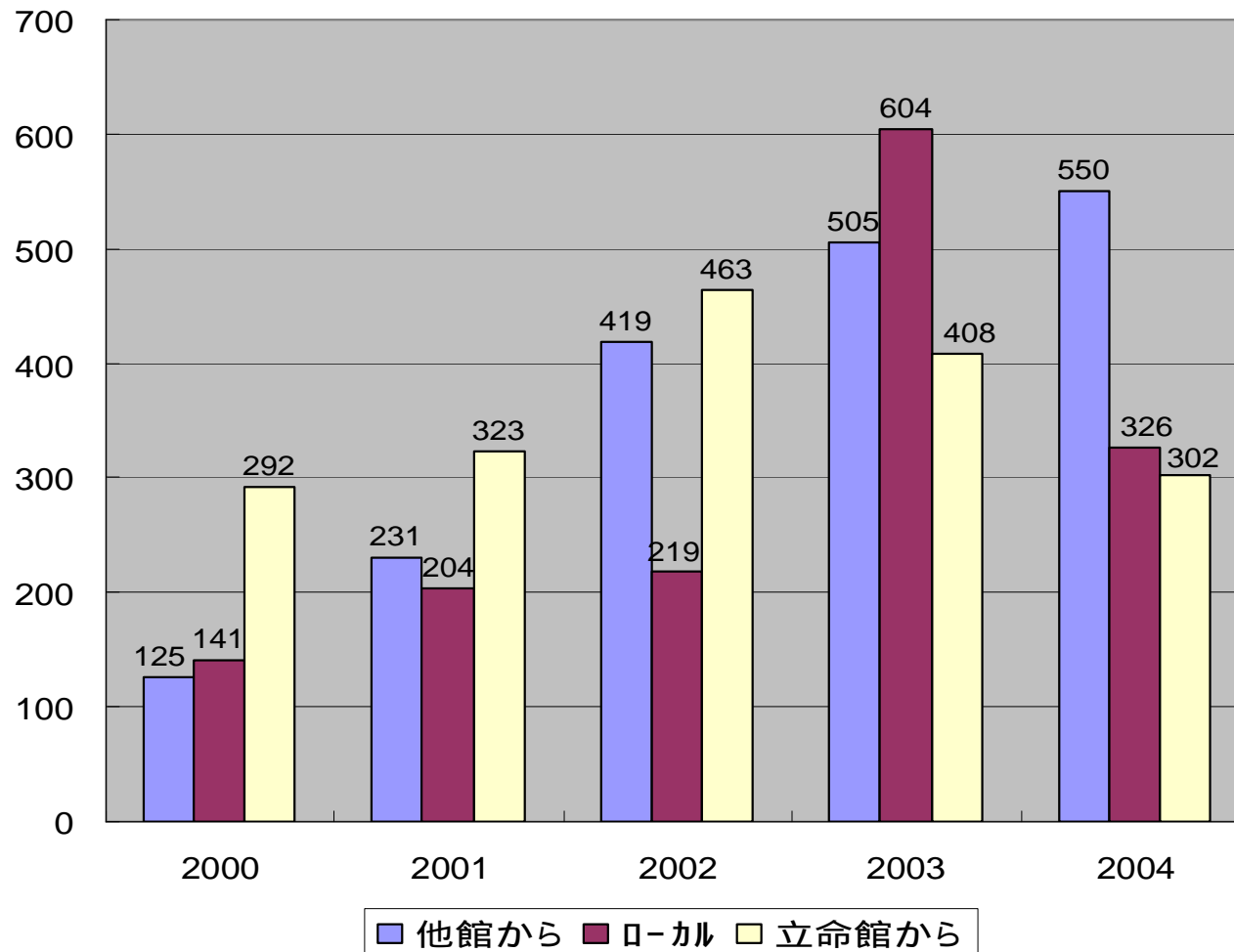
# 書誌調整の実態(1)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
他館	70	41	119	38	39	103
ローカル	37	30	37	27	13	41
立命館	29	12	18	33	28	44
合計	136	83	174	98	80	188

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年比
43	27	80	27	25	48	660	120.0%
35	31	19	35	45	24	374	114.7%
28	30	44	32	26	20	344	113.9%
106	88	143	94	96	92	1,378	117.0%

# 書誌調整の実態(2)

書誌調整件数推移(合計)



**2005年度**

**他館 660**  
**ローカル374**  
**立命館 344**

**指数1999年  
度を100とす  
ると2005年  
度は442とな  
る。**

# 書誌調整の困難さ

## 総合目録DBとの関係

### NIIの書誌調整WGに参加して

- ・各館が目標とする書誌のレベルの相違
- ・各館の書誌に対する考え方の違い

# 書誌調整に対して困っていること

- **NIIの書誌作成基準の例外事項**  
マニュアル厳守か現状維持か
- **NIIへの質問事項回答内容**
- **書誌作成基準や記述についての変更**
- **シリーズ資料調整**  
(2巻目以後の情報による)
- **調整数の増加(負担増 多様な調整)**
- **作成館と所蔵館の責任の分担**

# 品質管理への要望(1)

## <実務レベル>

1. 調整・調査履歴結果を表示できる画面
2. 書誌修正館のログ(修正館と日時)の確認が可能なシステム
3. 新規書誌作成時に書誌をコントロールする仕組み
4. システム的に書誌調整が可能な機能を持たす(例 OCLC)
5. 明確な基準とマニュアルが必要  
(マニュアル方針か現状維持か)

# 品質管理への要望(2)

## < 大学職員レベル >

### 1. 講習会の活用

アウトソーシング請負企業社員

目録作成についての講習会

### 2. 目録作成・データベース内の目録品質管理 を社会的な業務へと引き上げる

大学への補助金等

学内で理解してもらえる業務

# 品質管理への要望(3)

## < 業者レベル >

安かろう・悪かろうのレベルに流れない仕組み

### 1. NIIによる業者の認定制度

アウトソーシング請負企業のレベル審査

目録作成についての講習会への参加義務

### 2. NIIによる書誌作成における最低価格

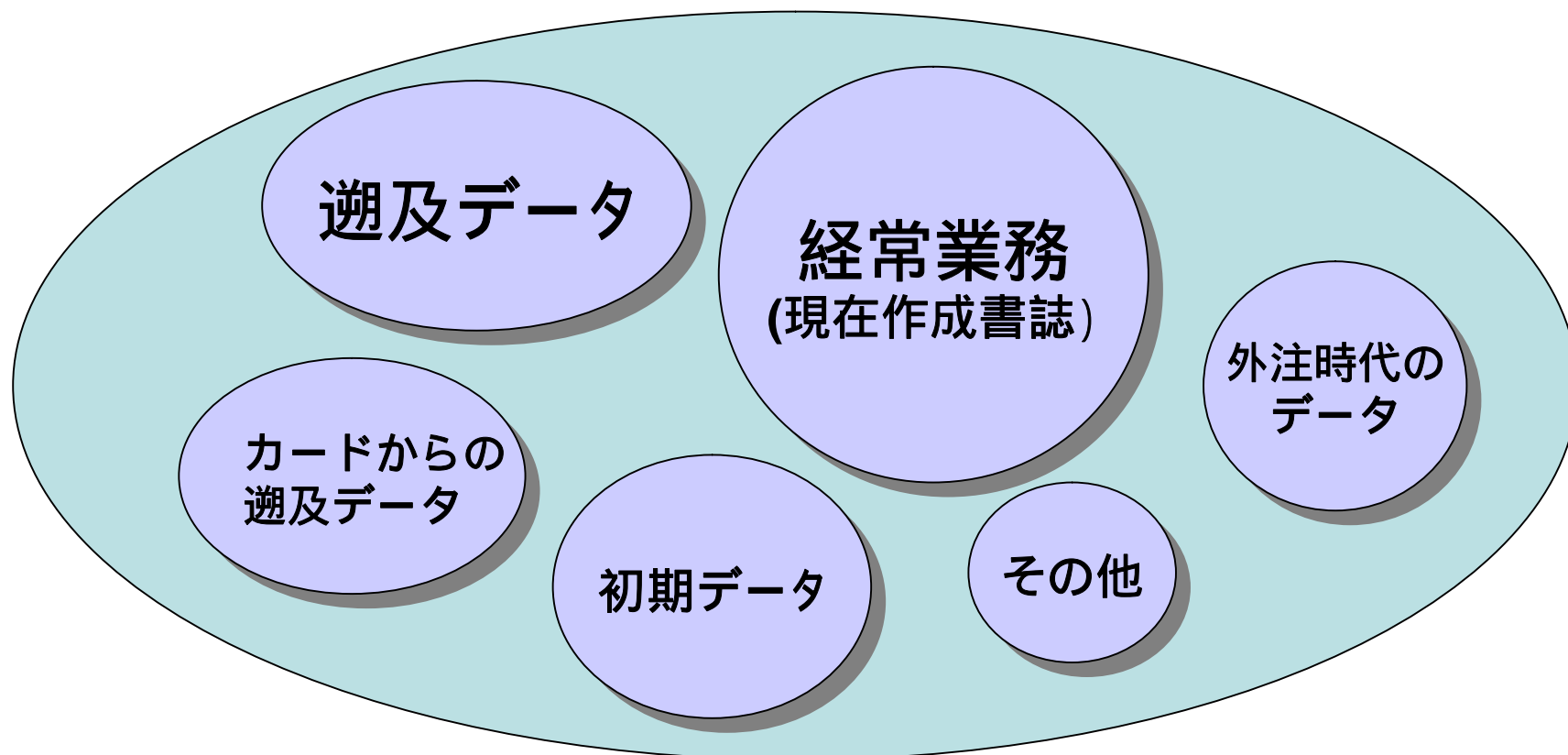
(賃金)の目安

- オリジナル書誌
- 参照書誌
- hit書誌

# 立命館大学の書誌の構築

(過去データの修正が困難な事例)

▶ 多様なデータがローカルDB内に混在





1. 大学職員担当者がローカル内にある  
多様な書誌の作成基準を理解し  
書誌DB全体を管理すること

・歴史的変遷とシステムコンバート

2. 学生(利用者)に教えるべきこと

・目録を解する(読み理解する)力  
と学習研究する力

# 立命館大学内における調整業務への工夫

## 事例集の例示

(立命館大学がNIIに質問した事例が必ずしもQ&Aに掲載されないため学内の事例集作成)

(学外)書誌調整の基本方針： 明らかな間違いでない限り作成者の判断を尊重。  
ユレがあり、重複していたり、検索に支障があれば調整。

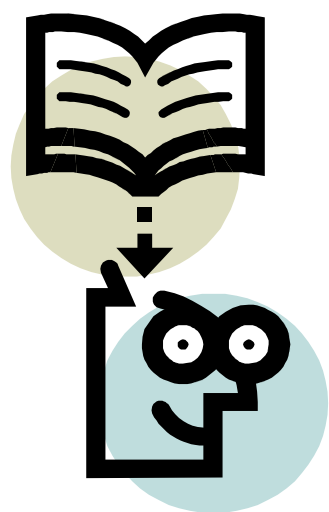
親書誌新規(別書誌)作成基準：洋書の場合の基準を参考に。また、同じシリーズで巻により、本タイトルが多少異なる場合でも、VTにて同書誌扱いするのが適当。

事例の検索はNCIDで検索すると出てきます。一部資料番号もあり。(書誌IDはシステムにより変動するので不採用)

番号	年	月	日	項目	項目	項目	種別	事例
1	04	6	10	ED	VOL		NII の方 針	Q: 年版(VOL扱い)と版表示(ED扱い)の双方の記載のある図書について、どちらに統一すべきか？(Q&A9500162900、9100112800、9000032000事例あるが古く、回答がまちまちなので再相談。) A: ケースによるので一概には言えないが、逐次的に刊行されているものはVOL対応で、内容の改訂とみなせればEDで。今回の事例は<BA5513346X>がVOL積み、<BA60687926>がEDで分かれているケース。VOLの<BA5513346X>を採用するとの回答。(管理番号: A000429500)。上記の方針は提示頂いたが、実際の作業としては、調整を行う負担を考慮し、重複などの不都合がなければ作成館の意向を尊重し、調整は行わないとのことでした。



- ・ 目録システム講習会開催・講師(自館の目録力を保持)
- ・ 司書実習受入
- ・ 研修(業者担当者との協働)



図書館大学  
職員

アウトソーシング  
目録担当者

- ・ 政策立案
- ・ 利用者サービスの向上
- ・ 図書館が学術資料の倉庫やアクセスポイントから  
「教育研究支援機関」へ

ご清聴ありがとうございました。